

## 人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点

学校種間の接続・一貫性を追求した実践事例

### 1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

福島県田村市

学校名

田村市立船引南中学校

学校のURL

### 2. 学校紹介

学級数

第1学年(2) 第2学年(2) 第3学年(2) 特別支援学級(0)

児童生徒数

第1学年(48) 第2学年(48) 第3学年(39)

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【教育目標】「夢・愛・自立」～Dreams come true!～

義務教育最終段階として、社会生活を営む上で必要とされる知識・技能・態度を身に付け、豊かな人間性を育成すると共に、自分の個性の発見・伸長を図り、自立心をさらに育成するというねらいから、「夢・愛・自立～Dreams come true!～（夢に向かって真剣に努力すれば、必ず夢は実現する）」を本校の教育目標に設定している。それぞれのねらいは、以下のとおりである。

「夢」 自分の将来についてよく考え、理想の実現を目指して自己の人生を切りひらいていく心をもつ。

「愛」 他の人に対して思いやりをもって接し、他の人からの思いやりに感謝の心をもつことができる。

「自立」 自立の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつようにする。

人権教育にかかる取組の全体概要

【研究主題】

「思いやりと感謝の心もち、誠実に行動できる生徒の育成」

【主題を設定した理由】

(1) 地域の実態から

本校は、28年前旧芦沢中学校と旧七郷中学校が統合された中学校である。地区内は、昔から農業を中心とした専業農家が多かったが、家業を継承する若者が少なくなり、児童生徒数も年々減少し、過疎化も進んでいる。各家庭の状況もさまざまであり、相手に対する敬愛の念や思いやる心などの育成が必要になってきている。

## (2) 生徒の実態から

昨今の厳しい社会情勢から、自分の将来像に夢を抱く生徒が少なくなってきた。目の前の限りなく近い目標に現実を求め、限られた人間関係の中で、自分の考えや感情をおさえながら生活しているため、さまざまな意思疎通に誤解が生じる場面が見られる。市の中心部から離れた地域であるため、対人関係が限られている。そのために新たなコミュニケーションを構築しにくい。そこで、多くの人たちとふれあい、互いに理解し合ったり、それぞれの考えや行動などを受け入れたりする場など様々な体験をさせることが必要である。

## 3. 特色ある実践事例の内容

### 【研究の重点】

今年度は、「道徳教育と人権教育の融合」を目指した取組みを中心にすえて研究実践を行うことで、人権感覚を養うことに重点を置いてきた。人権感覚の涵養を目指し、生徒の発達段階や学級の実態に応じて、各担任が指導案を作成した。それをもとに、授業研究部で事前検討会を行い、試行錯誤の末、指導案の修正などを行って、それぞれ研究授業を実施した。また、お互いに授業を参観し合い、学年ごとに事後研究会を実施し、成果と課題について検証した。

#### (1) 授業研究会

VTRを取り入れた授業研究会を定期的実施し、生徒の学びの状況から授業を振り返り、教科の垣根を越えて生徒の学びがどのように成立したかを中心に話し合う。また、道徳教育に積極的・計画的に取り組み、人権教育を意識した教育活動を校内活動全般で実施していくようにする。授業研究会は、同僚の言葉に心を開き、お互い指導力を高めると共によりよい授業のあり方を研究することを目的に実施する。

#### (2) 小中連携教育推進事業ゆめわくわくプラン2010

「豊かな心と確かな学力を身に付け、夢に向かって努力する子どもの育成」を目指し、教師・児童生徒の行事などを通じた交流を積極的に行う。特に教師交流では、義務教育9年間を見通した教科指導と生徒指導により、学力の向上と豊かな心の育成をめざす。さらに道路美化活動などボランティア精神の育成や音楽コンサート、地域社会に学ぶ体験教室により、心豊かなたくましい生徒の育成に努める。

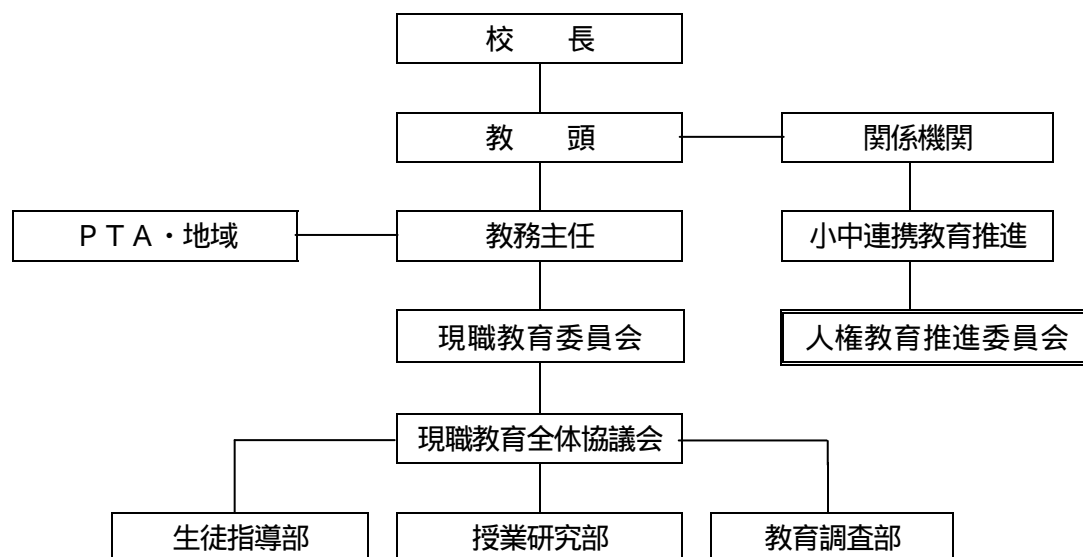
#### (3) 地域・保護者との連携

P T Aと連携し、学校行事及びP T A活動へ保護者の積極的な参加を促すと共に、様々な取組みや各種アンケート等の情報提供により、人権意識の高揚を推進する。

## 4. 実践事例の実績、実施による効果

## 【事業の組織及び推進体制】

### (1) 推進体制全体の概要



現職教育委員会（校長、教頭、教務主任、研修主任、各学年主任で構成）  
 全体研究計画の立案  
 仮説の検証  
 仮説と取組みのための具体策立案  
 小中連携教育授業研究会

研究成果のまとめ、次年度への提案

人権教育推進委員会（研修主任、研修委員、校長、教頭、教務主任）  
 人権教育推進計画立案と研究推進  
 研究実践・評価

全体会（全職員）

各教科推進計画立案  
 道徳、特別活動授業研究  
 授業研究、小中連携教育体験活動等による実践と検証

生徒指導部 ～人権の尊重された人間関係づくり～

人権教育活動の推進  
 各実態調査の計画、実施、考察  
 教育相談とカウンセリング

授業研究部 ～人権の尊重された授業づくり～

学力向上に向けた授業のあり方（構想）の検討  
 授業研究会実施計画立案（要請訪問、校内授業研究会、小中連携教育授業研究会）  
 授業研究会の運営（事前・事後研究会の持ち方、授業観察の方法など）  
 学習指導案の内容検討  
 提案授業の実施

### (2) 関係機関の概要

船引南地区小中連携推進委員会

9年間を見通した一貫性・継続性のある指導の充実を図る。

田村市立芦沢小学校、田村市立船引南小学校、田村市立船引南中学校  
 ・ 授業研究会 道路美化活動 音楽コンサート 体験教室

社会福祉協議会及び各事業所等

市社会福祉協議会、老人ホーム、病院、保育園、市役所等

- ・ 福祉体験学習 職場体験学習

その他

南地区みまもり隊、PTA、南地区事業所

福島法務局郡山支局 郡山市立中央図書館等

- ・ 道路美化活動 あいさつ運動 人権教育作文調べ学習



船引南地区生徒指導協議会

(3) 組織及び推進体制構築に当たって特に留意した点等

小・中連携



- ・ 船引南地区の小学校2校との校種間・異年齢間による連携の中で人権教育についてどのように進めていくかを、校内はもちろん小学校との打ち合わせ等を密に実施した。

福祉体験学習・職場体験学習

- ・ 生徒一人一人が自己課題を解決していくために、事業所や内容の検討を十分に行い実施した。

【研究の経過及び内容】

時 期	研 究 内 容
平成22年4月	第1回現職教育全体協議会の計画
平成22年5月	第1回現職教育全体協議会 学力向上/人権教育ランドデザイン作成 第1回校内研究授業の準備 第1回船引南地区小中連携授業研究会 第1回校内研究授業
平成22年6月	第1回学習に関する意識調査の実施 第2回現職教育全体協議会 第1回校内研究授業VTR研修 第2回現職教育全体協議会の再検討
平成22年7月	第3回現職教育全体協議会
平成22年9月	生徒・PTA合同奉仕作業 第2回校内研究授業 船引南地区小中連携道路美化活動(地域・保護者の参加と協力)
平成22年10月	第4回現職教育全体協議会 各コンテストデータ分析 第2回船引南地区小中連携授業研究会 第2回校内研究授業VTR研修
平成22年11月	全校生徒・PTA教育講演会 第2回学習に関する意識調査の実施 第3回船引南地区小中連携授業研究会 小中連携音楽コンサート(地域・保護者の参加)
平成22年12月	第5回現職教育全体協議会(研究のまとめ方について) 学習に関する意識調査結果の共有
平成23年1月	第6回現職教育全体協議会 第1回地域社会から学ぶ体験教室 (茶の湯、坐禅、ヨーガ、伝統工芸左官、大正琴、郷土料理、民話、椎茸栽培)

<p>平成23年2月</p> 	<p>第2回地域社会から学ぶ体験教室 (茶の湯、坐禅、ヨーガ、伝統工芸左官、大正琴、郷土料理、民話、椎茸栽培) 第3回地域社会から学ぶ体験教室 (茶の湯、坐禅、ヨーガ、伝統工芸左官、大正琴、郷土料理、民話、椎茸栽培) 新入生保護者への教育講演会 人権教育推進中間まとめ</p> 
<p>平成23年3月</p>	<p>第7回現職教育全体協議会</p>

## 5. 実践事例についての評価

### (1) 授業研究

日々の実践で人権教育を意識できるような具体的な手立てを各教科等で考える必要がある。各教科等の特性を生かして、「人権教育」との関わりをさらに深めた授業の創造を図っていきたい。人権感覚を磨く取組みは様々な面から行うことができたが、知的理解については課題が残った。

### (2) 教職員の研修会

人権教育を進める上での知識がまだまだ不足している。子どもたちに思いやりや感謝の心を育て誠実な行動につないでいくために、教師がはっきりとした理論や方針、知識をもって、子どもたちへの支援ができるようになれば、より適切な学習活動が展開できるだろうと考える。また、人権教育を効果的に推進するために、校内組織の再構築をすることも必要ではないかと感じた。

### (3) 特別支援教育及び生徒指導の充実 ～ネットワーク作りを通して～

発達障がいなど特別な支援が必要な生徒などについては、医療などの専門的な機関との連携を図りながら研修を深め、担任だけではなく学校全体で支援の在り方を検討するなど、人権に配慮した教育活動を推進し、生徒が笑顔になれる学校生活の有り様を検討していききたい。

また、本人や保護者の意見に真摯に耳を傾けていく姿勢を持ち続けていきたい。

### (4) 意図的・計画的な人権教育の推進

今年度は、もともと計画されていた行事を人権教育という視点を通して、見直すよう心がけた結果、文化祭など、友達をいたわりながら運営することができた。生徒会が中心となって運営したが、終了後、実行委員が感謝の言葉をかけると、生徒会役員が涙する場面も見られ、お互い協力し、感謝して終わることができた。

しかし、年間計画などの位置づけが曖昧な点もあり、系統的計画的に人権教育を推進する上では課題が残った。

一つ一つの経験や価値について学んだことを関連させて考えたり、日々の生活の円滑化に生かしたりできるように、学校全体で意図的、計画的に指導できるような体制を整えたい。

## 【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

田村市立船引南中学校

前掲芦沢小学校を校区に持つ中学校の、校種間の接続・一貫性を追求した事例である。過疎化の進む地域にあって、多様な人と出会い、「互いに理解し合ったり、それぞれの異なる考えや行動などを受け入れたりするなど様々な体験をさせることが必要」という認識に立って、福祉体験学習や職場体験学習を実施するとともに、「地域社会から学ぶ体験教室」として、連続8講座（1回限りのイベントではないことが特長）が実施されている。

「道徳教育と人権教育の融合」、人権尊重の人間関係づくり、授業づくり、9年間を見通した一貫性・継続性のある指導が目指されている。特に授業研究会は、「同僚の言葉に心を開き、お互い指導力を高めるとともによりよい授業の在り方を研究する」という目的のもと、VTR を取り入れた研修や小中連携授業研究会が計画的に実施されており、参考になる。